



南木曾ろくろ細工

「和」に解け合い、「洋」にお洒落な伝統の逸品。

NAGISO ROKURO CRAFTS



南木曾町の観光

長野県木曾郡南木曾町は長野県の南西部、木曾谷の南端で岐阜県との県境に位置する山間にあります。江戸時代は中山道の宿場町として賑わいをみせ、妻籠宿は往時の姿を色濃く今に伝えています。「日本で最も美しい村連合」のひとつでもあり、風光明媚な町は人気の観光地として大勢の観光客が訪れています。



南木曾町(なぎそまち)は、NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



INFORMATION

位置図

交通アクセス

名古屋方面	中央本線	南木曾	バス 30分	木地師の里	バス 30分	南木曾	中央本線	松本	中央本線	東京方面	
	中央自動車道	中津川IC	R19 20分	妻籠宿	R256 15分	木地師の里	R256 30分	昼神温泉	R153 15分	飯田山本IC	中央自動車道

伝統工芸品取扱店

ヤマダイ大蔵	〒399-5302	木曾郡南木曾町吾妻4689-51	TEL.0264-58-2052
カネキン小椋製盆所	〒399-5302	木曾郡南木曾町吾妻4689-108	TEL.0264-58-2021
ヤマイチ小椋クロコ工芸所	〒399-5302	木曾郡南木曾町吾妻4689-220	TEL.0264-58-2041
漆美堂漆器店	〒508-0501	岐阜県中津川市山口2203-3	TEL.0573-75-3640
田上民芸	〒399-5302	木曾郡南木曾町吾妻4689-423	TEL.0264-58-2205
野原工芸	〒399-5302	木曾郡南木曾町吾妻4689-644	TEL.0264-58-2330
木芸工房さかい	〒399-5301	木曾郡南木曾町読書2769	TEL.0264-57-2183



南木曾ろくろ工芸協同組合 〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻4689 TEL.0264-58-2434

協賛/南木曾町・南木曾町商工会 長野県地域発元気づくり支援金活用事業

木と匠、千年の用の美。



暮らしに彩り、温もり。
日々愛着が湧く器たち。

ろくろ細工は、無垢の厚い板や丸太をろくろを廻しながら、独特のカンナで挽いて形を削り出す事から「挽物(ひきもの)」とも言われています。

ここ木曾谷は、古くから樹齢数百年のトチノキ、ケヤキ、セン、クリ、サクラなど、木目の美しい広葉樹に恵まれていました。街道整備が進み、多くの旅人や御嶽山登拝の修験者らで賑わう江戸時代から、ろくろ細工は木曾の特産として盛んに創られ、中山道を江戸へ、京へと広められました。やがて「トクサ磨き」や「漆拭き」の加工を確立させ、際立つ美しい木目、自然の風合いと手触りの良さが特徴の南木曾ろくろ細工は、完成度の高い逸品として知れ渡り、その精神性と技術は連綿と今に受け継がれています。

伝統工芸師が削りだすのは、小さな棗(なつめ)から、椀、皿、鉢などの伝統的製品、さらには花器、筆記具、スピーカーなど、伝統技法とアイデアを駆使した創作製品は様々。「和」「洋」に、生活様式の変化や多様化するニーズを先取りしたデザインと製品開発が進められ、確かな伝統に裏打ちされた曲線流麗な南木曾ろくろ細工は、「用」と「美」を兼ね備えた逸品として、時を超え心を魅了してやみません。



NAGISO ROKURO CRAFTS

It is a "Rokuro" produced in Nagiso Town, enriching everyday life.
It is a tool that has been loved by people for a long time.
It is a traditional technique that has been inherited.



南木曾ろくろ細工の歴史

南木曾町は幾重にも重なる山間に位置する小さな町ですが、古くから交通の要衝でした。古代には吉蘇路が、近世には中山道が整備され、木曾十二宿のひとつ、妻籠宿があることでも知られています。こうした歴史を背景に、南木曾ろくろ細工は町の基幹産業の一端を担い発展してきました。

木地師は、文徳天皇(在位八五〇〜八五八)の第一皇子惟喬親王の家臣で、木地挽きの技術の習得を命じられた小椋実秀と大蔵惟仲の末裔とされています。小椋・大蔵の姓が多く集住し、こんにちまで技術を伝承しているのは、わが国でもここ漆畑地区(現木地師の里)だけです。

南木曾ろくろ細工の歴史は定かではありませんが、町の古文書によると十七世紀には木地師が居住し、名古屋や大阪方面に椀や盆などの木地荷物を出していたという記録が残っています。その後尾張藩の山林統制によって木曾を離れますが、維新後の明治六年(一八七三)には広瀬桂地籍に入り、同十三年に水利が良い漆畑地区に移り住み、木地師の集落(現木地師の里)が形成されました。手引きから水車動力、そして電動ろくろが導入されて生産性も向上。昭和五十五年(一九八〇)南木曾町は国の伝統的工芸品の産地に指定され平成二十八年(二〇二六)には「日本遺産・木曾路はすべて山の中」の構成文化財のひとつに認定されました。



It is a "Rokuro" produced in Nagiso Town, enriching everyday life.
 It is a tool that has been loved by people for a long time.
 It is a traditional technique that has been inherited.



KA0549910

南木曾ろくろ細工
 南木曾ろくろ工芸協同組合



大平峠県民の森(南木曾町)

千年の時を超えて
 木と共に生き、木と語り合う
 木地師たちの職人魂と誇り。

脈々と受け継がれる伝統の技。ろくろの前に座り、真剣な眼差しはろくろカンナの刃先へ。シュルシュルと木挽き屑が舞い上がる。外から内へ、内から外へと左手小指の力加減や木質に合わせて、刃先の当て具合を微妙に変えながら美しい形を削り出します。削る音と指先の感触を確かめながら、息を凝らす木との真剣勝負。丁寧に、丁寧に。木と語りながら、美しい木目をより美しく、流れるような曲線、温もり伝わる手触り、そしてほかに漂う木の香り。素朴な中にも気品ある独特な風合い、まさに芸術品としての深い味わいを漂わせています。



歴代の末裔が集い、
 受け継がれる伝統の技と、職人魂。

国の伝統的工芸品の産地に指定された「木地師の里」は、JR南木曾駅から車で約10分の漆畑にあります。のどかな山間に肩を寄せ合うように数軒の木地師が集まっている地域で、椀や皿などの器類、盆や鉢物などの伝統的製品に加え、それぞれ得意分野を生かした工房独自の個性的な新作・創作製品の開発・製造・販売をしています。

個性的な製品が展示されているほか、木地師の作業風景の見学もでき、ろくろ細工の手挽き体験も可能です。毎年秋には「ろくろ祭り」が開催されています。



木地師の里

山あい響くろくろ挽きの音、日本屈指のろくろ細工の聖地。





幾百年の時を超えて
 厳しい自然が創り出す造形美

南木曾ろくろ細工の魅力は、
 何とんでも木目の美しさ。
 厳しい木曾の気候に幾百年を耐えた
 古木だからこそ生まれる年輪の妙。
 どう生かすかは木地師の腕の見せどころ。
 木と匠の真剣勝負が繰り広げられ、
 磨き抜かれた手技で生まれる製品は、
 どれをとっても世界にたったひとつ。
 自然が織りなす造形美を存分にお楽しみください。
 大人数の盛り合わせ皿や普段使いの
 使い方はあなたのアイデア次第。
 生活の様々なシーンで
 便利な道具としてご利用ください。

生きて いる 木



いつまでもずっと使いたい、
 自然の風合いと優しい温もり。

なめらかに丸みを帯びた美しいフォルムと
 表情豊かな美しい木目が幾百年を物語る。
 自然の木が持つ優しい風合いと安心感。
 毎日の暮らしに潤いを与えてくれる逸品です。
 味噌汁・丼物・煮物、果物、和・洋菓子にと、
 自分流に自由にお使いください。
 大切な方への贈り物などにもおすすすめです。
 陶器に比べ軽くて壊れにくく優しい手触りは、
 ろくろ細工ならではの。
 扱い方も強くこすったり浸け置き洗い、
 食洗器での使用等避ければ
 気軽にお使いいただけます。

木と 語る



木地鉢 Bowl



お盆 Tray



お盆 Tray



茶びつ Vessel



蓋付きお椀 Bowl



お椀 Bowl



茶筒 Tea caddy



蓋付き小鉢 Small bowl



浅型木地鉢 Bowl



多用鉢 Bowl



菓子鉢 Bowl



フリーボウル Bowl



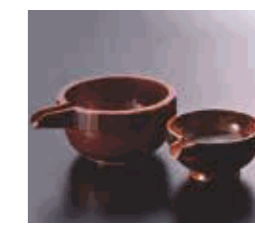
平皿 Dish



皿 Dish



コップ Cup



片口 Cup

優雅に薫る木

匠が誘うシンプルな美の世界
控え目でありながら光る存在感

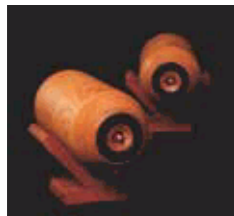
伝承の技はそれぞれの木がもつ木目を生かし、
その温もりや優しさを表現することにあります。
南木曾ろくろ細工が織りなす流れるような曲線は、
鍛え抜かれた木地師の強いこだわりと、
職人魂の賜物です。
伝統の技は、
時として現代の生活に潤いと安らぎを
与えてくれるものでもあります。
原木から選び、
仕上がりを想像しながら木取りをし、
ろくろを廻す。
製品のつひとつに匠の魂が込められています。



響き合う木

伝統は新たな可能性を見出し、
感性を刺激する創作逸品を生む。

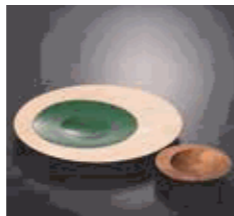
受け継がれる伝統の技と革新の融合。
南木曾ろくろ細工は使い手が毎日を楽しみ、
もつ心の豊かさ、生活に潤いを添える逸品にと、
匠たちが技の粋を生かし、
木に新たな生命(いのち)を吹き込みます。
じっくりと木と対話し、
その可能性を知り尽くしているからこそ
生まれる新しい製品の数々。
これまでなかった柔らかな透明感のある響き。
感じたことのないフィット感。
使い込むほどに風合いやオリジナリティが増し、
愛着が湧いてきます。
一度味わったら手放せない
あなたの感性に響き合うパートナーになるはずですよ。



スピーカー Speaker



ボールペン Ballpoint pen



皿 Dish



箱 Box



花器 Vase



花器 Vase



花器 Vase



花器 Vase



山間の、小さな町の大きな誇り

地域の文化遺産を総合的に活用する



地域の文化遺産を紹介する「木曾路はすべて山の中。山を守り山に生きる」木曾ストーリーが二〇二六年四月、長野県で初の日本遺産に認定されました。ストーリーの構成は、豊かな森林資源が木曾の人々の暮らしを支えたこと。木曾地方を代表する木曾檜は、木目の美しさから神社仏閣の良材として乱伐され資源の

日本遺産の郷

一定地域で少数の者が製造を行っているもの。これら指定要件をクリアしたものに對し、経済産業大臣が指定するものです。

伝統的工芸品

長野県南西部に位置する木曾地域。西に霊峰・御嶽山、東に中央アルプスが連なり、中央には深い谷を刻む木曾川と木曾路・中山道が続き、日本の古き良き原風景を彷彿させてくれます。

危機を招くに至りましたが、厳しい保護政策で守られてきた時代背景。そして、その制限された中で奨励された地場産業。また、街道整備による宿場の賑わいが地場産業を支えたこと。厳しい保護政策の下、地場産業は全国に名高い伝統的工芸品として結実したことが認められました。

日本遺産に認定された木曾地域で、伝統的工芸品として認められた南木曾ろくろ細工は、国内はもとより世界に誇る南木曾ブランドです。

平成28年度 日本遺産認定
木曾路はすべて山の中
～山を守り山に生きる～

「南木曾ろくろ細工」は
日本遺産構成文化財のひとつです。

日本遺産とは？日本遺産 (Japan Heritage) は、地域に根差した歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。地域の魅力ある有形・無形のさまざまな文化財群を整備・活用し、総合的なストーリーとして国内外に発信、活性化を図ることを目的としています。



●南木曾ブランドロゴ
南木曾ろくろの持つ天然の木目を生かした素朴で温かい手作りの良さを、ろくろを挽く様子から優しい円をベースに表現しました。「木製品、自然との調和、優しさ、高級さ」を、温かみの残る渋めのオリブブラウンで伝えます。

ロゴ・マーク製作コンセプト

木目の美しさを最大限に挽き出す。南木曾の木地師たちが木と向き合いながら創り出す「南木曾ろくろ細工」を、今までの以上に広く知っていただけるよう木地師の想いや背景をロゴマークに表現しました。

南木曾ろくろ細工が伝える伝統的な「技」を通して本物の良さ、自然の美しさを実感していただきたいという想いをマークに、若い世代や海外へ向けた新しいニーズの発掘をコンセプトにロゴを具現化しました。

南木曾ろくろ細工の製作工程

南木曾ろくろ細工の製作で最も大切なことは、木を知り、木と対話する事です。

木それぞれの声を聴き、個性を読む。

外からは見えない内面の質や風合い、木目など隠れた美しさを見抜いて創りあげていきます。

もちろん、道具であるカンナの歯を鍛えるのも木地師の仕事です。

選木、木取りから塗装に至る全てを自身の手で行い、一つひとつの工程に想いを込めて完成度の高い製品を創っています。



原木

樹齢100年を超えるトチノキ、ケヤキ、セン、クリ、サクラなど。



選木

ろくろ細工の要。経験と鋭い目利きで良材を選び抜く。



玉切り

製品の種類や用途に合わせて原木を輪切りにする。



挽割り

玉切り材の木口面を上にして挽き割る。



丸め

円形または楕円形に外側をざっくり切り落とす。



荒挽き

ろくろを使い、カンナで厚めの寸法に挽いて形を切り出す。



乾燥

樹種や寸法により数カ月～3年ほど乾燥させ木を安定させる。



仕上げ挽き

職人自ら鍛製した数種類のカンナを操り慎重に仕上面を平滑にする。

仕上げ磨き

最終仕上げ磨きの前に紙やすりで全ての面を磨き上げる。

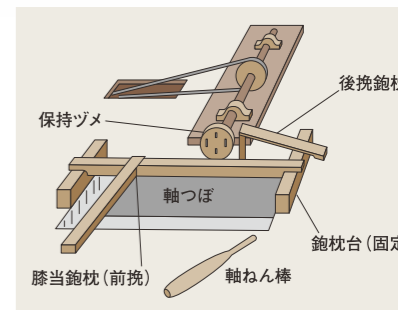


漆拭き

天然漆をすり込み磨く。

漆拭き製品 ▶

ろくろの構造



ろくろ細工に使われる主な樹種

ろくろ細工に最適とされる材木の条件は、木の繊維が整っていること、適度な重みがあること、そして美しい木目が現れることです。



トチノキ



ケヤキ



セン



クリ



サクラ